

イントロダクション： かつてイエスは「家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。」と言われた。仲間割れはコリントの、そして世界中の教会をつぶすためのサタンの策略の一つである。もしサタンが分裂の種を植え、クリスチャンがその種を育ててしまったらいずれは自身の破滅を招いてしまう。分裂はいろんな形をとって、またいろんな方法でやって来る。今日の箇所ではコリントの教会がどのようにして分裂し墮落に至ったのか、またどうしたらそれを避けられたか、ということを見てみよう。

1. さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みな一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。実はあなたがたのことをクロエの家の者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、(1:10-11)
 - a. 主イエス・キリストから来る合意/一致もあるが、他の要素 — 例えば恐れ、欺き、勢力など — によって一致団結してしまう場合もある。もちろん私たちが求めるべき一致はそのようなものから来るべきではない。
 - b. 不一致や意見の違いは生きていく中で日常的に起こることであり避けることはできない。多様性とは主ご自身がつくられ愛されたことで、後ほどこの手紙の中でも見ていくが、時としてその「違い」の性質、またその違いの扱い方によって問題につながることもある。コリントの教会ではそれが問題に発展してしまった。
 - c. 「違い」は相乗効果を生むか、分裂を生むか、のどちらかである。
 - d. 人々が同じ心（フォーカス）、同じ判断を持つ時、それは相乗効果を生む。同じことに対して“YES”と言うことが大切なと同様、“NO”と言うことも大切である。

2. あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく。」「私はアポロに。」「私はケパに。」「私はキリストにつく。」と言っているということです。キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたのはパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名によるのでしょうか。私は、クリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けたことがないことを感謝しています。それは、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたと言われないようにするためでした。私はステパナの家族にもバプテスマを授けましたが、そのほかはだれにも授けた覚えはありません。キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授けさせるためではなく、福音を宣べ伝えさせるためです。それも、キリストの十字架がむなしくならぬために、ことばの知恵によってはならないのです。(1:12-17)
 - a. コリントの教会が分裂したのは少なくとも3つの原因があった。1)未熟さ（ねたみ、争い、この世的な知恵）、2)リーダーに服従することができなかった（パウロの使徒としての働きは難航しており、彼のミニストリーは批判を受けていた）、3) 彼らの礼拝と交わりの中心にはイエス・キリストの福音と十字架の上の業がなかった。
 - b. 未熟な信者たちは会衆がそれぞれのグループに分かれるように促し、そのグループはねたみ（と貪欲）により形成され、争いによって活動していた（1 コリント 3:3）。私たちは誰によって影響を受けるか注意しなければならない。もしねたみ、貪欲、争いを察したらそれはこの世の欲や未熟さのしるしである。
 - c. これらの未熟な信者たちはこの世的な知恵を使っていた。この世の知恵というのは魅力的で聞こえも良く、見た目にも良く、基本的には効果もある。しかしこの世の知恵と神の知恵は相反するものである。私たちは教会として気を付けないと表面レベルでは良いように見えても神の御国レベルではまったく価値のないことをしていることになる。
 - d. イエスは「預言者を預言者だということで受け入れる者は、預言者の受ける報いを受けます。また、義人を義人だということで受け入れる者は義人の受ける報いを受けます。」（マタイ 10:41）と言われた。神はある働きと目的のために特定の人たちを召し、油注ぎをし、賜物を与え、私たちのもとへ遣わしてください。私たちがへりくだって彼らを受け入れなければ失敗を招いてしまう。
 - e. 本当の一致には十字架が中心になくはならない。私たちが集まるのはイエス・キリストのため、そして彼が私たちのために十字架にかかってくださった（十字架にかかる前、十字架上で、またその後なされたことすべて）ためである。私たちがその真実のもとに集まり一致するのでなければ、間違った目的で集まっていることになる。